光明寺通信

こうみょう

第１１号

新しい年を迎えました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、地域の方々やお寺とご縁のない方々との初縁づくりを願って、「光明寺同朋の会（法話会）」「写教の会」「体幹らくらくヨガ」という３つのお寺でのつどいを始めました。

その中でも、「写教の会」と「体幹らくらくヨガ」には、今までご縁のなかった方々が多くお寺に足を運んでくださいました。きっかけはさまざまです。お寺の掲示板にあるチラシを見た、インターネットでお寺のホームページを見た、お友達が参加しているので一緒に来てみた、などなど。

これからも、お寺への「初縁づくり」に力を入れていきますので、ご近所・お友達をお誘いのうえ、ぜひお寺へお越しください。居心地の良い場所となれるよう、頑張ってまいります。

今年の目標ですが、さまざまなテーマで「終活（しゅうかつ）」を行ってまいりたいと思います。葬儀や納骨のことはもちろん、保険や税金、相続問題、医療や介護、エンディングノートなど、不安なことを皆さんと一緒にお話しし、今のいのちをよりよく生きるためのお寺となれるよう、企画をしてまいります。

この如来（にょらい）は光明（こうみょう）なり。光明（こうみょう）は智慧（ちえ）なり。

智慧（ちえ）はひかりのかたちなり。

親鸞聖人著作（しんらんしょうにんちょさく）『一念多念文意（いちねんたねんもんい）』

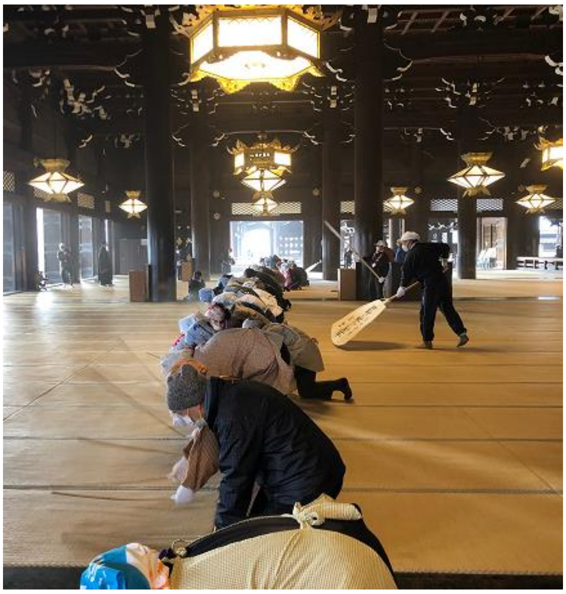
真宗本廟（京都・東本願寺）の鐘楼（しょうろう）と銀杏

第１１号
2019年１月１日発行

発行責任者
〒135-0013
東京都江東区千田９－７
真宗大谷派　光明寺
住職　小林尚樹
電話：03-3644-3043
メールアドレス：
koumyouji@sky.plala.or.jp

お煤払い奉仕団に参加してきました

2018年12月19日～20日　於　真宗本廟同朋会館



京都の東本願寺では、年中行事として、毎年12月20日に「お煤払い」が行われます。私（住職）は、２０１４年夏から２０１７年夏まで、京都の本山内にある宿泊の出来る奉仕施設、同朋会館に勤務しておりましたので、毎年お煤払いには参加しておりました。

このたび、２年ぶりに奉仕団として参加してきました。首都圏にお住いの７人のご門徒さん方と一緒に、１泊２日の真宗本廟奉仕団の生活を過ごしてきました。

お煤払いは、竹の棒を両手に持って、横並びで一斉に畳をたたきます。その後ろから、大きなうちわで外に向けて、畳からたたき出されたほこりを追い出してゆきます。

堂内に、モヤがかかったように埃が舞い上がり、竹の棒で畳をたたく音が響き渡ります。

東西両本願寺が同日に行うため、この光景は、京都の風物詩となっており、テレビ局や新聞社など多くのメディアが取り上げます。

後で知りましたが、実は、私（住職）も、テレビに映っておりました。

お煤払いが済んだ後には、改めてお内陣の荘厳を直して、新しい年を迎える準備がなされます。

いつか、光明寺で参加してみたいですね。

真宗本廟奉仕について

東本願寺の境内にある同朋会館に泊まって、寝食を共にし、法話・語り合い・清掃などを通した生活が真宗本廟奉仕です。

いろいろな地域から集まった、世代や環境も違う人たちが出あい、共に生活することで、喜びや悲しみを共有し、日常の中で忘れてしまう大事な感覚を取り戻すことができる生活です。

（同朋会館ホームページより）

食堂の風景

参加者が、感じたことを話しています

この真宗本廟奉仕には、お寺単位で申し込むことが出来ます。普段は立ち入ることの出来ない諸殿の拝観や、本山のお御堂のお掃除など、貴重な体験をすることが出来ます。

近いうちに、皆さんをお誘いして、真宗本廟奉仕と合わせて、京都のお寺をめぐる旅行会を計画してみたいと思います。

ご期待ください！

仏事について…ここが知りたい！

「終活（しゅうかつ）」について

「こうみょう」の第6号でも取り上げましたが、改めて、「終活」ということについてお伝えしたいと思います。

まず、「終活」という言葉についてですが、２００９年に『週刊朝日』から生み出された言葉でありまして、２０１０年の新語・流行語大賞にノミネートされ、２０１２年の同賞ではトップテンに選ばれています。

ですから、最近の新しい言葉ということではありませんし、おそらく、どこかで聞いたことのある言葉なのではないでしょうか。

しかし、なんとなく他人事で、自分とは関係のない言葉のような印象があったのかもしれません。

それが最近、改めてこの「終活」という言葉を、よく目にし耳にするようになりました。

「断・捨・離」や「墓じまい」、「散骨」や「エンディングノート」という言葉を生活の中でよく聞くようになりましたし、さまざまな業種が「終活」という言葉を取り上げ、メディアなどを通じて、私たちに呼びかけているようにも思います

「終活」は、もちろんまず第一には自分の問題でありますが、親を看取る子や、ご遺族にとっても大切な問題になってきます。

ご葬儀の場に接し、お聞きすることですが、ご遺族が大変ご苦労される場合があります。

それは、葬儀のことやお墓のこと、保険や相続の問題、さまざまな名義変更や手続き、遺品の整理などなど、それらが、ご遺族に同時に降りかかってくるのです。

事前に準備し、整理できることがあれば、済ませておいた方がよいと思いますし、あとのことをきちんとお話しできる人がいると安心ですよね。

ですから「終活」は、死を迎えるための準備ということだけではなく、「人生のエンディングを考えることを通じて、“自分”を見つめ、“今”をよりよく、自分らしく生きる活動（終活カウンセラー協会より）」であり、与えられたいのちを、今、安心して生きてゆくための準備になるのです。

これからは、安心して、自分らしく生きてゆくために、お寺で「終活」を始めたいと思っています。

仏具のお磨きをしました

報恩講をお勤めするため、本堂お内陣にある仏具磨きのお手伝いをいただきました。

仏具磨きは、年に2回のお寺の行事である、永代経の前（5月の第一日曜日）と報恩講の前（11月の第一日曜日）に行っております。

真鍮でできた仏具を、磨き液を使ってピカピカに磨きます。お内陣は浄土のお荘厳、阿弥陀如来の光の世界を表します。一つ一つの仏具を磨くことを通して、阿弥陀如来の光のはたらきを感じる…。そんなひと時をお過ごしいただきたいと思っております。

多くの方にお手伝いいただきたいと思っておりますので、また、ご案内いたします。

お手伝いいただいた方が、「仏具を磨かせていただくことで、自分の心を磨いているようです」とおっしゃっていたのが印象的でした。
みなさんも、一度、体験してみませんか？

二〇一九年　年忌法要（亡くなった年）

四十九日法要…亡くなった日から四十九日
一周忌法要…二〇一八年（平成三十年）
三回忌法要…二〇一七年（平成二十九年）
七回忌法要…二〇一三年（平成二十五年）
十三回忌法要…二〇〇七年（平成十九年）
十七回忌法要…二〇〇三年（平成十五年）
（二十三回忌法要）…一九九七年（平成九年）
二十五回忌法要…一九九五年（平成七年）
（二十七回忌法要）…一九九三年（平成五年）
三十三回忌法要…一九八七年（昭和六十二年）
五十回忌法要…一九七〇年（昭和四十五年）

※地域により、二十三回忌・二十五回忌・二十七回忌は、お勤めする習慣が異なりますので、お寺にご相談ください。

写教の会

教えの言葉を書き写す「写教」の会です。

開催日：１月16日・２月13日・３月６日
水曜日の14時～17時まで開けていますので、出入り自由です。

参加費：無料

「正信偈」を書写しますので、筆ペン又は書道道具をご持参ください。

光明寺同朋の会（法話の会）

親鸞聖人が書かれた「正信偈」には、どのような教えが記されているのでしょうか。
少しずつですが、学んでまいります。

開催日：１月26日・２月23日・３月23日
土曜日の14時～16時半まで

参加費：５００円
初回の方はテキスト代６００円

※皆さまのご参加をお待ちしております。

体幹らくらくヨガ

お寺で、リラックスした気持ちでヨガを体験してみませんか。無理なく体を動かしながら、自然と体の内側を鍛えることが出来ます。日常から離れて、自分の体と向き合い、心地よい時間を過ごしましょう。

開催日：毎月第２火曜日の10時半～11時半
毎月第４火曜日の19時～20時
※月に２回開催しています。

参加費：１，０００円

花まつり法要

お釈迦さまは、４月８日にお生まれになったと、日本には伝わっています。
お釈迦さまのご誕生と親鸞聖人のご誕生、そして、新たな仏弟子の誕生をご縁に、法要をお勤めいたします。ぜひお参りください。

日時：４月７日（日）13時より法要
法要の後に30分ほどの法話あり

参加費：無料